

UID Center

都市政策の 基本的な課題と方向

坂村 健

東京大学 大学院 情報学環 教授

2008/06/24

UID Center

都市政策の基本的な課題と方向

何のための都市

- 公共機能のスケールメリット
- 経済発展のエンジン
- 文化牽引のエンジン

ニーズ

- 国際競争力維持
- サステナブル・シティ
- 安全・安心
- 教育
- 快適な生活環境
- 都市の刺激
- 防災・減災

課題

- 都市と農村
- 地方と中央
- 少子高齢化
- 中心空洞化
- 医療崩壊
- 格差問題
- インフラ老朽化
- 移民問題
- 交通問題
- 都市のアイデンティティ

UID Center

都市政策の基本的な課題と方向

シーズ

- 新技術の開発
- 新体制への移行
- 制度の変更
- 評価システムの構築

ソリューション

- コンパクト・シティ
- シティ・リージョン(都市圏)
- イベント開催
- コモンスの再生
- 地方をたたむ

} EU発

UID Center



都市政策コンセプトの 多くがEU発

サステナブル・シティ、コンパクト・シティ、シティ・リージョン、
持ち回りイベント(欧州文化都市)、コモンスの再生、...

uid Center

より具体的な興味深い実践例

- パリのVelib'
 - 現実空間でのGoogle的広告モデルによる公共サービスの実現
 - パリ市内で広告が自由が「ない」からできた
- イエテボリ市のフレックスルート
 - 市民がすべて持っている市民IDカードがパス
 - IDカードがないと乗れ「ない」デマンドバスシステム
- ドイツのトラック等の重量車を対象に実用化されたERP
 - GPSを使用した電子式道路課金システム
 - 車を走行させること自体を、道路サービスの享受であると考え課金をする
 - 市街地でGPSを利用して道路課金システムをロンドン市でも検討

uid Center

EUのコンセプトを高く評価しながらなぜ日本で実践できないのか?

当たり前だが…技術がないわけではない
GPSベースのERPシステムもすでに日本では開発済み
しかし導入予定は海外

uid Center

結局根本的な課題は「私権の制限」

個人主義と思われるEUも都市政策では私権を大きく制限
日本人の多くがあこがれる「パリの街並み」も、だからこそ可能

日本の都市政策の関係者は誰でも感じていること
しかし理解は得られないとして、ずっとタブー視してきたこと

この問題を避けて進むことはそろそろ限界に
住民基本台帳カード問題からの多くの教訓→技術だけの解決には限界

uid Center

技術だけでは不可能 しかし技術は新しい 社会の前提条件を生む

インターネットは従来考えられなかったようなレベルの「討論環境」であり「集合知を生むシステム」
日本の「世論」成熟の限界を決めていたマスコミを超える可能性

「私権の制限」について真正面からのあきらめない問題提起を
ネットを通じて直接社会へ